

グループホームきんもくせい
(別紙の2)
自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とホールに理念を掲げ、月1回の会議時に、職員皆で唱和している	今年度、今までの理念を見直し、分かり易く簡潔なものに作り直している。利用者が毛筆で書き上げた、新たな理念「利用者の思いを大切に」を含む三項目はコミュニケーションルームに掲示されている。役職者が理念にそぐわない言動をみた場合は直接注意し、場面に応じながら利用者に向けた対応をするよう助言している。職員間でも気づけば声を掛け合っている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の高齢者の集まりや、敬老会にも参加させていただいたり、畑の作物の差し入れもある。防火訓練にも参加していただいた。	地区に法人として年会費を納めている。お寺や公民館等で開かれる「鉢伏会」に年4回、利用者と職員全員が招かれ、地域の高齢者や保育園児などと交流しつつ、歌、マジック等を楽しみ、健康チェックや昼食の提供もある。また地区の敬老会にも全員が招待をいただいている。ボランティアの手芸教室では季節に合ったものを作っている。全利用者が職員の手伝いを受けながら年賀状を作り今年も家族に送った。住民からの野菜や果物の差し入れも沢山届いている。ホームのケアマネージャーが地域とのパイプ役となり中味の濃い交流が出来ている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われる行事に、利用者と参加させていただき、交流を持っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハット、事故報告など、細かく報告しており、会議出席者の意見もお聞きして、ホーム運営に、生かしている。	家族、民生委員、地主、公民館長、駐在所員、消防団員、市職員、地域包括支援センター職員をメンバーに奇数月に開催している。ホームの運営や利用者状況、活動等を報告し、出席者から意見・要望を伺い、意見交換した後、勉強会(講師を呼ぶこともある)を行なっている。1月には薬品会社の方が講師として来訪し嚥下機能について予定されている。過去にはAEDIについて、介護保険のこと、成年後見人について等の勉強会を開いてきた。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告など密に連絡し、認定更新時には、担当者へ利用者の暮らしぶりなどを伝え、連携をふかめている。	市の担当者には運営推進会議で事業所のことを報告している。利用者が退去した場合は包括支援センターに相談に向くこともある。介護相談員が年4回ほど来訪し、お茶を飲みながら利用者の話を聞いたり、散歩に付き添うこともある。利用者との話や感想は月遅れで送られてくる。介護認定の更新申請の代行、認定調査に立会い、本人の様子を伝え、家族が同席することもある。区分変更が必要な時は家族と相談し了承されれば手続きしてる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、なるべくしないように、心がけている。	原則として「拘束はしない、拘束に頼らない」ケアの提供に努めている。車椅子に丁字ベルトなど複数拘束された状態で病院から移ってきた利用者はトラウマが出て乱暴な行為があったが何をしてもなく拘束を解除することで「なんで拘束されていたのだろう」と不思議なほど穏やかになったという。外を気にする利用者にはリビングからテラスに出たいただき気分転換したり、外を歩くことで満足していただいている。冬でも毎日防寒服を着て気分転換と足腰のリハビリのため散歩している。

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的、心理的虐待の話は、スタッフ会議では、話している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部のスタッフは、研修に参加しているが、全員に徹底はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの報告、モニタリング等のお話の場や、面会時など、御家族の意見をお聞きし、スタッフ会議や運営会議で報告している。	利用者の多くは自らの意思を伝えることができるが、その他の方も感情表現はできている。家族も週1回から月1回来訪したり、通院などで本人との時間を作っている。家族には来訪した時に本人の様子を見ていただくことや日々の様子を伝えながら要望や意見を伺っている。冬季には居室が寒い(北側の部屋)等の訴えがあり対応に努めている。外出や日々の暮らしのスナップ写真を以前は掲示やアルバム風にして閲覧していたが今の姿を見ていただくために毎月家族に送るように切り替え非常に喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回会議を開き、意見を聞くようにしている。	月1回のユニット会議は遅番と夜勤者を除き、19時から始まる。決算報告、利用者ケアの検討や研修報告等を行い、意見交換もしている。引き継ぎは一日4回あり、職員は始業前に出勤し日報等に目を通し、統一したケアの提供に努めている。外部研修については社協、広域連合、グループホーム連絡会等から案内が届くが、インターネットからも検索し、今年度の目標である職員が一人1回以上外部研修に行くようにしている。役職者も現場に出ており、必要があれば職員に声を掛け話を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	気分転換できる休憩室を確保したり、スタッフの話を聞くように、している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ1人1回は、外部研修を受講するよう、計画している。		

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力していただいている他のグループホームはあるが、スタッフ同士の交流は行われていない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族から、サービス利用について相談を受けた場合、必ずご本人と面談させていただき、ご本人を理解しようと努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までのご家族の苦労や困っていることなどお聞きして、次の段階の相談につなげている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思い、状況を確認し、必要なサービスにつなげる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に得意分野で力を発揮していただき、感謝するという関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、誕生会に出席していただいたり、基本、受診は、ご家族にお願いしている。ボランティアに来て下さるご家族もいらっしゃる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親戚、友人などが面会にいらしたら、また来ていただけるよう声かけしている。	面会は随時可能であり面会者は多い。孫、ひ孫、兄弟姉妹などの親族の他、隣近所の知人や友人、昔の同僚などが訪問している。子供が勤めている会社の関係者が差し入れ持参で来訪し、その後も季節の果物やお菓子を持参し来訪を続けている。家族とお彼岸のたびににお墓参りに出かける方、遠方の子供の家に家族が集るお正月、外泊がてら出かけた方もいる。電話を直接、子供に掛けている方が新聞で馴染みのお菓子を見て電話注文し職員を慌てさせたこともあった。女性は隣接の美容院へ行き、3ヶ月に一回格安料金にいただいている。男性も家族と馴染みの床屋に出かけている。	

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶や食事の時間は、スタッフも一緒に多くの会話をもつようにしたり、トラブルになった時は、個別に話を聞いて、スタッフが調整役となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所なさった利用所の所にスタッフが訪問して様子を伺ったり、御本人、家族を激励している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で発する言動を見逃さず、平穩に生活して頂ける様、把握に努めている。	利用者は多くは口頭で意思を伝えることができる。一部の方は声がけの言葉を理解でき、「嫌」または「いい」と応えることができている。日常の会話の中で利用者が何を思い何を望んでいるのか注意をし話を聞いたり、食べたいものは何か、何をしたいかと問いかけることもある。雪景色を見ながら思い出話を聞くこともあり、テレビを見ながら旅行で行った所をたずねたり、広告を見ながら何がすきか、洋服はどれがいいかとアプローチしながら情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、これまでの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その場、その場の状況を観察し、記録に残し、スタッフ全員が共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人は勿論、家族の意向を聴取し、介護記録に書かれた内容を反映させ、利用者の思いに添った介護計画の作成にあたっている。	利用者の状態や思いは日々接している職員からの話や個別ファイル、業務日報などからケアマネージャーが把握している。本人の話を聞き、家族からは要望等を伺い、利用者一人ひとりの意向に沿った介護計画を作成している。上段に短期目標と援助メニューが書き込まれた個別の月間記録表がある。職員は毎日バイタルや排泄、食事などを記録するたびに一人ひとりの目標を目にすることが出来、理解している。評価の見直しは3~6ヶ月で行い、変化等なければ継続し、問題があれば一部修正したり作り直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に書かれた内容は、スタッフ全員が閲覧し、利用者の支援、介護計画の更新時に活かしている。		

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、緊急な受診、買い物等必要な支援は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館の利用や地区の敬老会、年4回、地区のミニデイサービスに参加し、地区住民と交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は今まで掛かっていた医師に、必要に応じて家族に同行して、様子を伝えるようにしている。	本人家族の希望するかかりつけ医となっている。現在、定期的に往診を受けている利用者が1名いる。通院や受診は家族に付き添いをお願いしているが、異状や変化がある場合には職員が同行し医師に状態を伝えている。インフルエンザの予防接種は個別にかかりつけ医で受けている。夜間や土・日曜日の緊急時は協力医療機関の病院との連携体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な変化を見逃さない様早期発見に取り組んでいる。気が付いたことがあれば、看護師に報告し、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報を医療機関に提供し、退院時には、早期に出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、終末期ケアが出来るよう、検討中である。	契約時に看取り支援はできない旨を家族に伝えている。ホームとしては縁あって出会った利用者・家族の意向があれば最期まで支援して行きたいとの思いはあるが24時間365日相談や往診可能な医師がいないため取り組むことが出来ないでいる。看護師(非常勤)2名が利用者の健康管理をしている。家族に受診をお願いしていたが急変し医療機関で最期を迎えた方や医療機関に移り現在も治療を受けている方などがいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網は、整備されている。ほぼスタッフ全員が普通救命講習を受けている。		

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した訓練を実施し、地域の消防団や、近隣住民も訓練に参加した。	消防署の指導の下、地域住民の協力もいただきながら夜間想定訓練を実施している。通報訓練、消火器の扱い方、利用者の避難・誘導訓練などを行っている。住民には避難した利用者を見守っていただいた。毎月1回の自主訓練では利用者が防災頭巾を被り職員の誘導で避難している。消防団が行う消火栓を使った訓練には地区住民も参加し職員と協力して行っている。備蓄は万全ではないが食料品や介護用品など用意されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対し丁寧な言葉掛けをするよう心がけている。	利用者の人格を尊重することが基本であると職員に周知しており、一人ひとりの表情を理解し対応している。人権等に関する外部研修の出席者がユニット会議で伝達講習する予定がある。利用者は苗字や名前に「さん」を付けて呼ばれている。個人情報の取り扱いやプライバシー保護に関しては利用者や家族と契約時に取り交わす重要事項説明書等でホームの規程を説明し、その内容について職員にも周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り希望に添える様、配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活が乱れない範囲で、その人のペースを大切に、利用者の話に耳を傾け、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その都度、本人にお聞きしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に出来る仕事をお願いして、役立つことの喜びを感じて頂き、利用者スタッフとスタッフが、一緒に楽しく食事している。	食事に関わる一連の作業には利用者もできる範囲で参加し、野菜を切ったりテーブルを拭いたり、片付けなどしている。若干名ではあるが職員に声をかけられたり、一部介助を受け食事をとる方もいる。食べやすい大きさにカットされたものを頂く利用者もいる。夏場は菜園から収穫された野菜がテーブルに上ることもある。お寿司が好きな利用者も多く折にふれお寿司を取ったり、好きなメニューを聞き希望に合わせることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量・水分量をチェックしている。		

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けし、その人の力に応じて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンをつかみ、なるべく排泄の自立にむけ支援している。	利用当初はオムツであったが時間で誘導している間に失禁が減り、リハビリパンツになって現在は布パンツへと改善された方がいる。また、時間誘導することで失禁がなくなったケースもある。昼間はびったりパンツ、夜はリハビリパンツをはく方もいる。一人ひとりの排泄状況を見直しながら介護用品の改善に努め、気持ちよい生活が送れるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操と水分補給の徹底、野菜や果物も摂取するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のスケジュールはあるが、入浴中、後も笑顔で喜んで頂ける様、会話にも配慮している。	足腰の筋力低下の予防にむけて午前中の散歩を優先しているため午後2～3名入浴している。雨など天気が悪い日は午前中に1名、午後2名入浴している。一人概ね一時間の入浴時間を取っている。浴槽の湯は一人入るたびに替えている。入浴中は気分が良いのかデイサービスへ行った時の話や「この傷は」と傷にまつわる話、戦時中の話など、楽しかったこと、苦しかったことなどを話してくれる方もいるという。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活を心がけ、生活のリズムを整える様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が薬の内容や副作用までは理解していないが、誤薬がないよう注意し、服薬時は、飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション(歌、トランプ、かるた、しりとり、塗り絵など)や食事の手伝い、洗濯物たたみなどしていただいている。		

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お散歩、ドライブなど行っている。地域の行事なども、参加を心がけている。	日常的にはホーム近辺を散歩して体力づくりに努めている。近所の家のバラ園に時々立ち寄っていたところある日からベンチを用意していただくようになり一休み出来るようになった。外出に関してはおやつを持参し全員で出かけることにしている。花見、アジサイ、牡丹、藤と花の季節には良く出かけている。秋は紅葉狩り、ぶどう狩り、鉢伏会や敬老会にも出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は家族から預かり、必要なものが買えるよう支援はしているが、本人が使えるようには支援出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日常的に電話はしていただいている。毎年、年賀状は、家族宛に書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに花を置いたり、壁には、季節ごとの飾りつけをしている。温度や湿度にも配慮している。	リビングからはテラスに出ることができ、暖かい季節にはテラスでお茶を楽しみ、外気に当たりながらおしゃべりしたり気分転換をしている。リビングの壁には元習字の先生が毛筆で書いた全利用者(一名はペン字の自書)の「今年の夢」が掲示されていた。その横には利用者の一人が詠んだ沢山の俳句も掲げられていた。床暖で冬は快適に過ごすことが出来、乾燥し過ぎないように室内の温度・湿度の調整も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで新聞や本を読んだり、談話室でテレビを観たり、穏やかに、仲良く過ごせるように、雰囲気作りをしている。夏期には、テラスが活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、寝具はご家族が用意していただき、写真や思い出のものなど持ち込まれている。	全部の居室ではないがベッドの下には収納ケースが取り付けられている。壁に数着の洋服がかけられた居室、また、誕生カードが2つ並べられて飾られた居室もあった。ダンスや家族写真、手芸教室で造った作品、本なども置かれている。カーテンを開ければ冬景色や隣家が見え、各居室は同じくりではあるが持物やレイアウトが違い、一人ひとりの居場所としての配慮が感じられる。エアコンで温度調節もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表れをつけ、トイレは大きな字で表示している。		